

中京学院大学
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
自己点検・評価報告書

中京学院大学「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」では、デジタル社会において必要とされる基礎的素養として、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な知識・技能を修得することを目指している。本報告では、その実施状況と学修成果を「数理・データサイエンス・AI 教育自己点検評価委員会」にて自己点検・評価を行い、今後の課題を明確にする。

なお、本プログラムの対象科目は以下のとおりである。

学部	科目名	開講時期	単位数
経営学部	データサイエンス入門 (旧カリキュラム：情報処理概論 B)	1 年・後期	2 単位・必修
看護学部	情報処理と管理	1 年・後期	2 単位・必修
	統計分析法	2 年・前期	1 単位・必修
短期大学部 保育科	情報処理法	1 年・前期	1 単位・必修
	情報分析法	1 年・後期	1 単位・必修

* 経営学部では新カリキュラムへの移行に伴い「情報処理概論 B」を「データサイエンス入門」に科目名変更した。再履修者が旧科目「情報処理概論 B」を受講しているため、両科目のデータを合算して集計している。

1. 学内からの視点

1) プログラムの履修・修得状況

本教育プログラムは、すべての学部で必修科目として配置しており、履修率は 100% である。必修科目の履修登録は、教学推進部において一括して履修登録を行い、履修登録漏れが生じないようにしている。

2025 年度の各科目の履修者数および単位修得者数は以下のとおりである。

学部	科目名	履修者数	単位修得者数（率）
経営学部	データサイエンス入門 (旧カリキュラム：情報処理概論 B)	70 名	51 名 (72.9%)
看護学部	情報処理と管理	34 名	30 名 (88.2%)
	統計分析法	35 名	35 名 (100%)
短期大学部 保育科	情報処理法	42 名	40 名 (95.2%)
	情報分析法	38 名	36 名 (94.7%)

また、2025 年度の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの修了者数は以下のとおりである。

学部	2025 年度プログラム修了者数
経営学部	51 名
看護学部	33 名
短期大学部保育科	36 名

看護学部は、統計分析法が 100%である一方、情報処理と管理は 88.2%であった。短期大学部保育科の単位修得率は約 95%と高水準であった。経営学部は 72.9%と、他学部と比較すると低い結果となった。各学部・学科における単位未修得の主な要因としては、出席時間不足が多くを占めていた。そのため、対象科目における出席状況の早期把握や、学修継続に向けた学生支援を強化する必要がある。

2) 学修成果

シラバスには、「学生が達成すべき行動目標」が記載されており、その目標に到達するための授業内容の構築を行い、到達状況を確認している。単位修得率は学部により差があるものの、単位を修得した学生はシラバスに記載された「学生が達成すべき行動目標」に到達していると考えられる。

今後も数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の基準を十分満たすよう、最新動向を踏まえた授業改善を進めていく予定である。

3) 学生アンケートを通じた学生の内容理解度

プログラム修了後アンケート（図 1～3）では、データや AI の利活用における留意事項、データの扱い・読解・説明の力、最新動向や活用事例の理解、学ぶ意義の理解など 12 項目について尋ねた。

「強く思う」「思う」を肯定的回答とした場合の全設問平均肯定率は、経営学部（n=14）92.3%、看護学部（n=28）86.9%、短期大学部保育科（n=17）89.7%であり、いずれの学部でも多くの学生が基礎的な知識を身につけたと自己評価している。一方で、「データあるいは AI を活用することによって、どのような価値が生まれているかを知ることができた」の項目は、看護学部・保育科において他の設問より肯定率が低く、経営学部では「データを扱うための力を養うことができた」の肯定率が低かった。学部ごとに課題が異なるため、それぞれの特性に応じた改善が必要である。

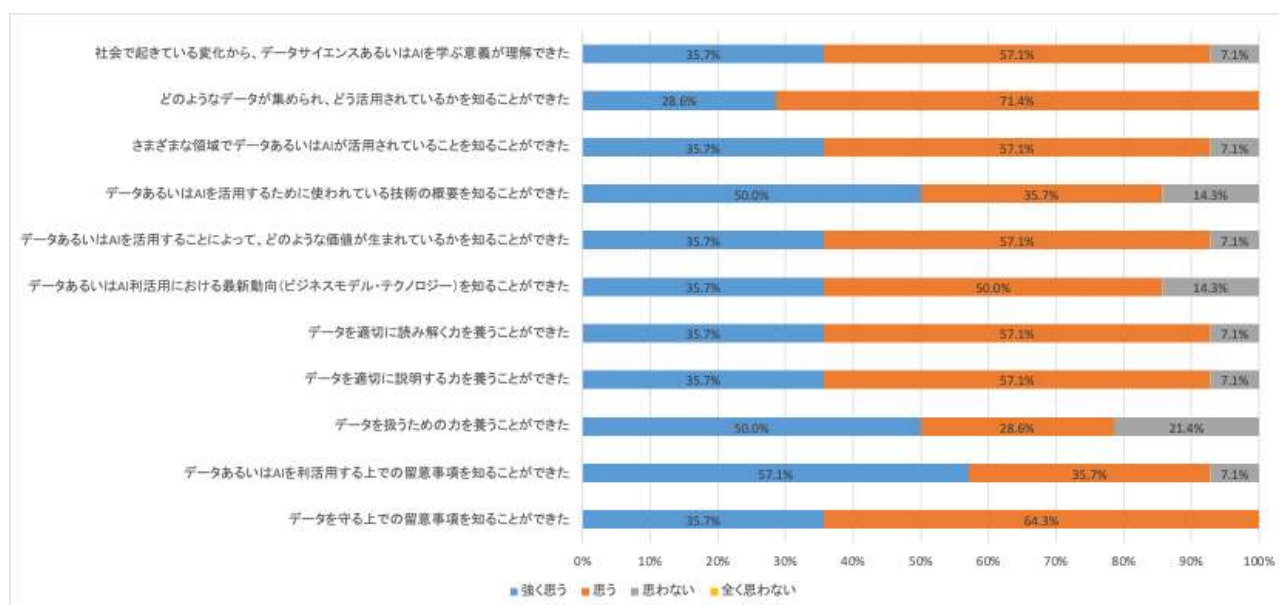


図 1：2025 年度 プログラム修了後アンケート【経営学部】（n=14）

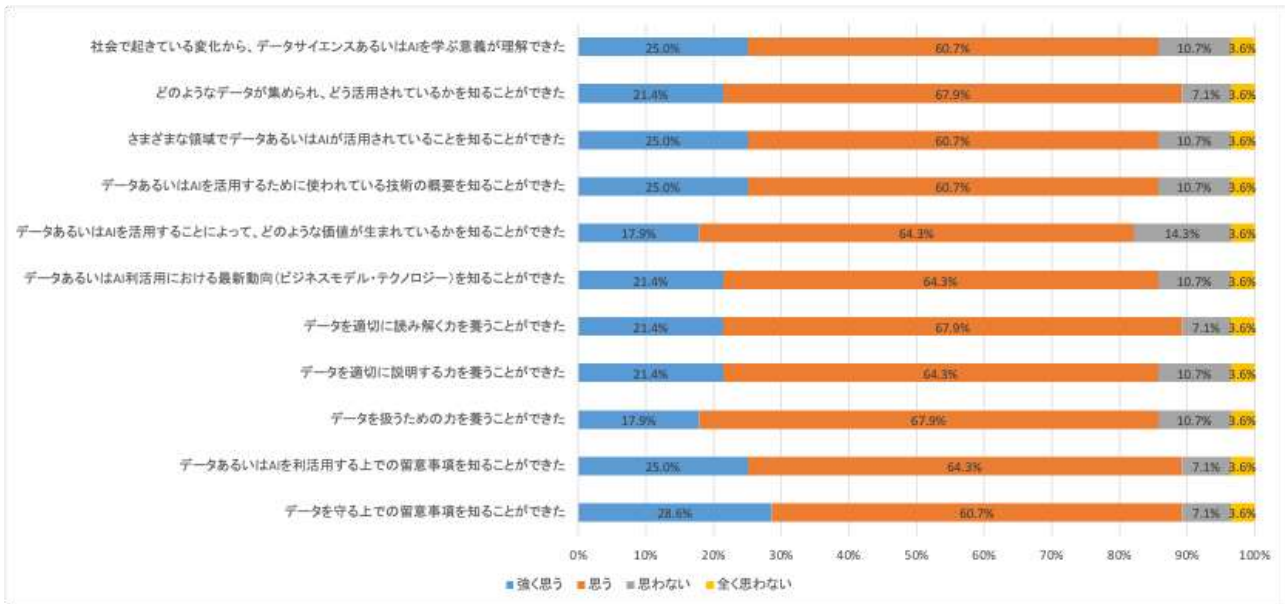


図 2：2025 年度 プログラム修了後アンケート【看護学部】(n=28)

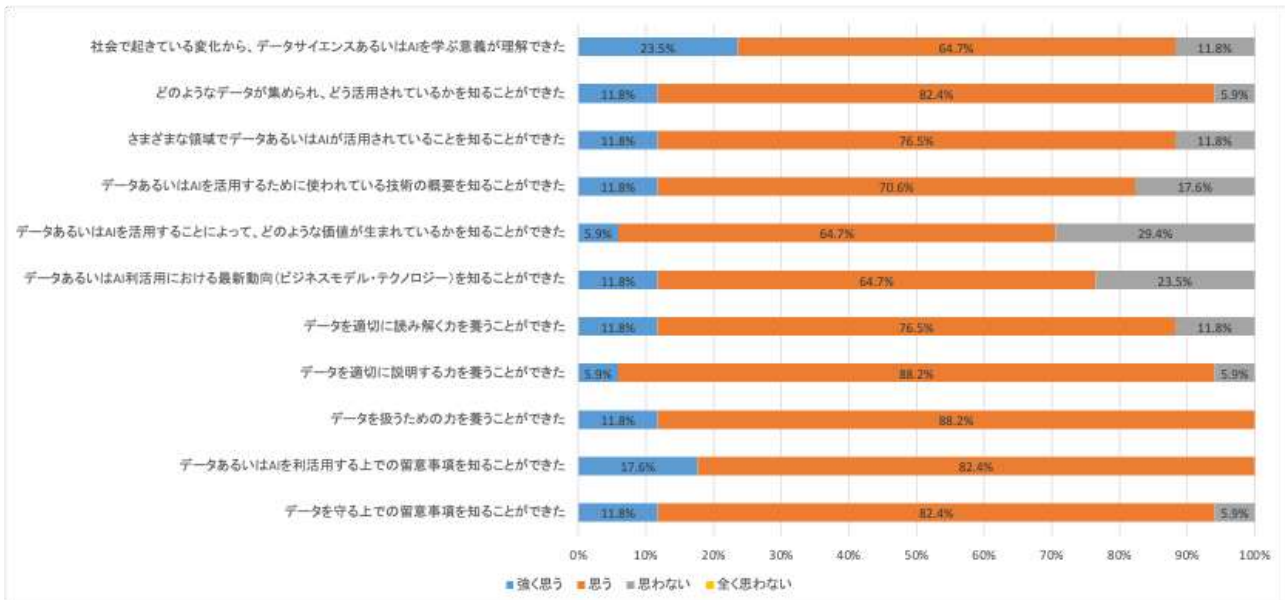


図 3：2025 年度 プログラム修了後アンケート【短期大学部 保育科】(n=17)

4) 学生アンケート等を通じた後輩等への推奨度

プログラム修了生を対象に推奨度を尋ねたところ(図4)、「強く推奨する」「推奨する」の合計は、経営学部 85.7% (n=14)、看護学部 82.1% (n=28)、短期大学部保育科 94.1% (n=17) であり、いずれの学部でも 80% を超える肯定的な結果となった。特に保育科は最も高く、「推奨する」が 88.2% を占めた。

一方で、看護学部では「推奨しない」「強く推奨しない」が合計 17.9% と他学部よりやや高く、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を十分に実感できなかった学生が推奨度を低く評価する傾向がうかがえる。すべての学部で対象科目を必修としているが、後輩等へ履修を薦めたい科目とするためにも、多様な学生に対応できる授業設計が引き続き求められる。

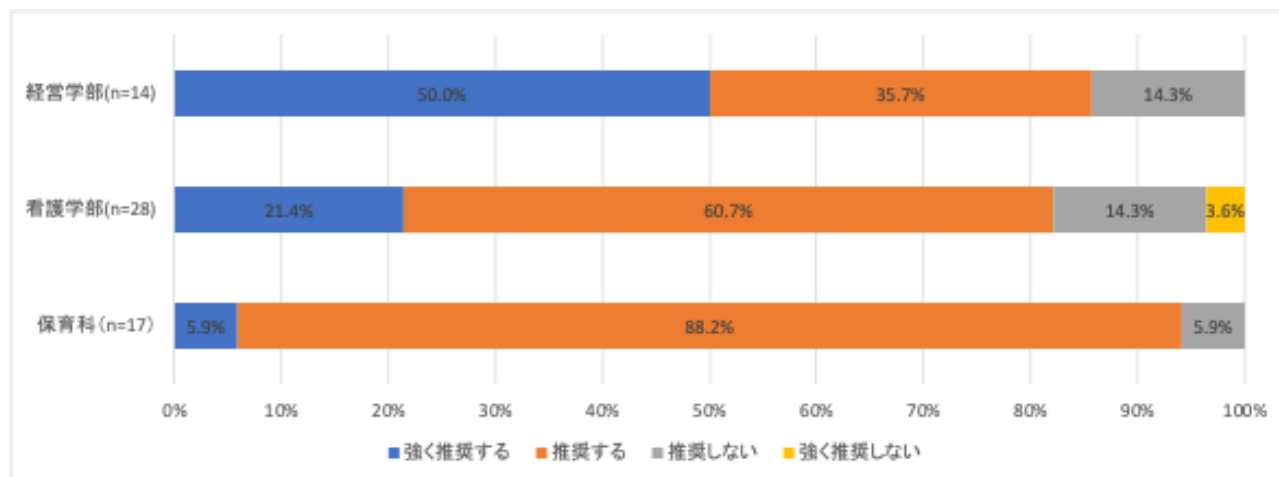


図4：データサイエンス・AI教育プログラムを大学の友人や後輩への推奨度

5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の対象科目を各学部で必修科目としているため、履修率向上に向けた特別な取り組みは実施していない。

履修率は100%であるものの、経営学部・看護学部において入学定員に対する在籍者数が定員を下回っている状況にあるため、結果としてプログラム履修者数は限定的である。今後は、大学全体の学生募集・入学者確保の取り組みと併せて、プログラムの魅力や学修意義を発信していくことが求められる。

また、経営学部では、単位修得率が低いため、学修支援の強化を含めた対応を検討する必要がある。

2. 学外からの視点

1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

プログラム修了者の進路や活躍状況等に関する体系的な追跡調査は今後の課題である。

外部評価委員からは、医療現場においてデータを収集できても有効活用が十分にできていない現状があり、学生時代に統計学を基盤としたデータ分析・活用の知識を身に付けておくことの重要性が指摘された。また、本プログラムのような段階的な教育は学生にとって有効であるとの評価を得た。

2) 産業界・実務現場からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

外部評価委員からは、ネットワークの発達により大量の情報が容易に入手できる現代において、データを収集するだけでなく、分析し課題解決や戦略立案につなげていく過程を学ぶ場の必要性が指摘された。また、AIを使いこなせる人材育成の重要性についても意見が寄せられた。これらの意見を踏まえ、今後はデータ分析の実践的な活用力やAIリテラシーをさらに強化するカリキュラムの充実を図っていく。

3. その他

1) 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

対象科目に参加した学生の80%以上が、授業に意欲的に取り組めたと評価していた（図5）。また、プログラムに対する満足度を尋ねたところ（図6）、「強く満足している」「満足している」の合計は、経営学部92.8%（n=14）、看護学部85.8%（n=28）、短期大学部保育科100%（n=17）であり、い

れの学部でも 80%以上の学生がプログラムに満足し、データサイエンスや AI を学ぶ楽しさや学ぶことの意義を実感できたと考える。特に保育科では全員が肯定的に回答した。一方で、看護学部では満足していない学生が 14.3%おり、授業内容や学び方の工夫が引き続き求められる。今後も、より多くの学生が「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を実感できるよう、授業内容の工夫や教材の充実を図っていく必要がある。

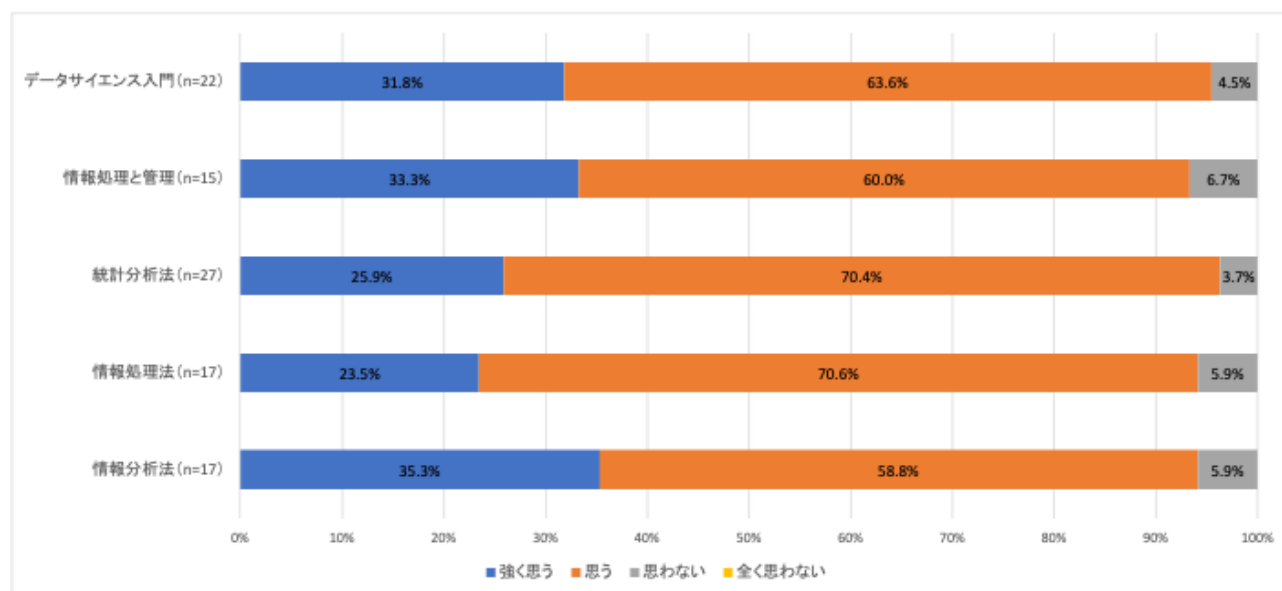


図 5：授業に意欲的に取り組めたと思うか

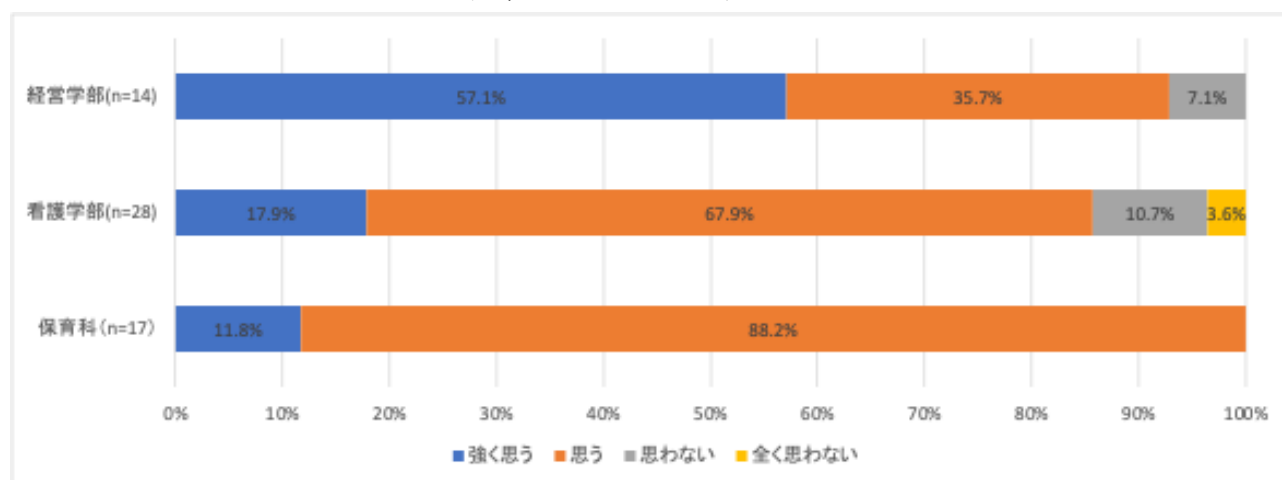


図 6：あなたはこのプログラムに満足していますか

2) 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

各科目とも、多くの項目で教員の授業の質を肯定的に捉えていたが、短期大学部保育科の情報処理法においては、課題が残る部分も見られる。学生の多様化により、ICT の利用経験が少ない学生にとっては、授業の進行に合わせるのが大変であったと考える。ICT の利用経験が少ない学生も授業進行に円滑に適応できるよう、SA（スチューデントアシスタント）を活用し、個別サポートを充実させる取り組みが求められる。

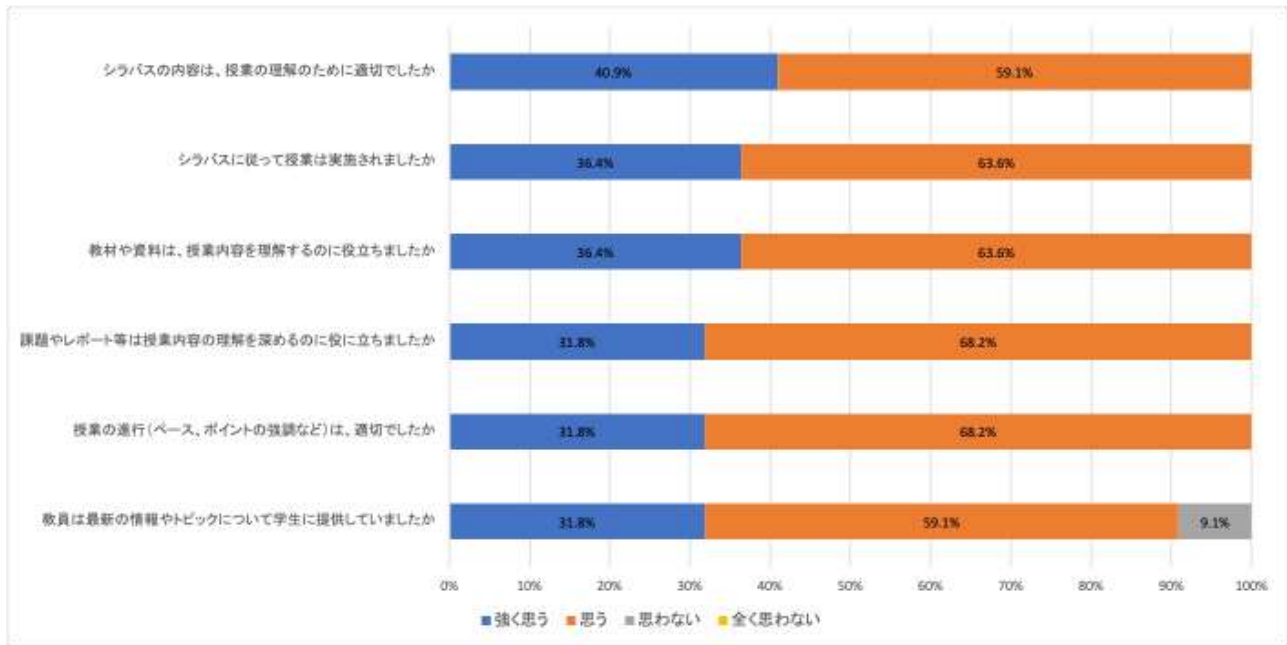


図7：授業の質について【経営学部 データサイエンス入門】(n=22)

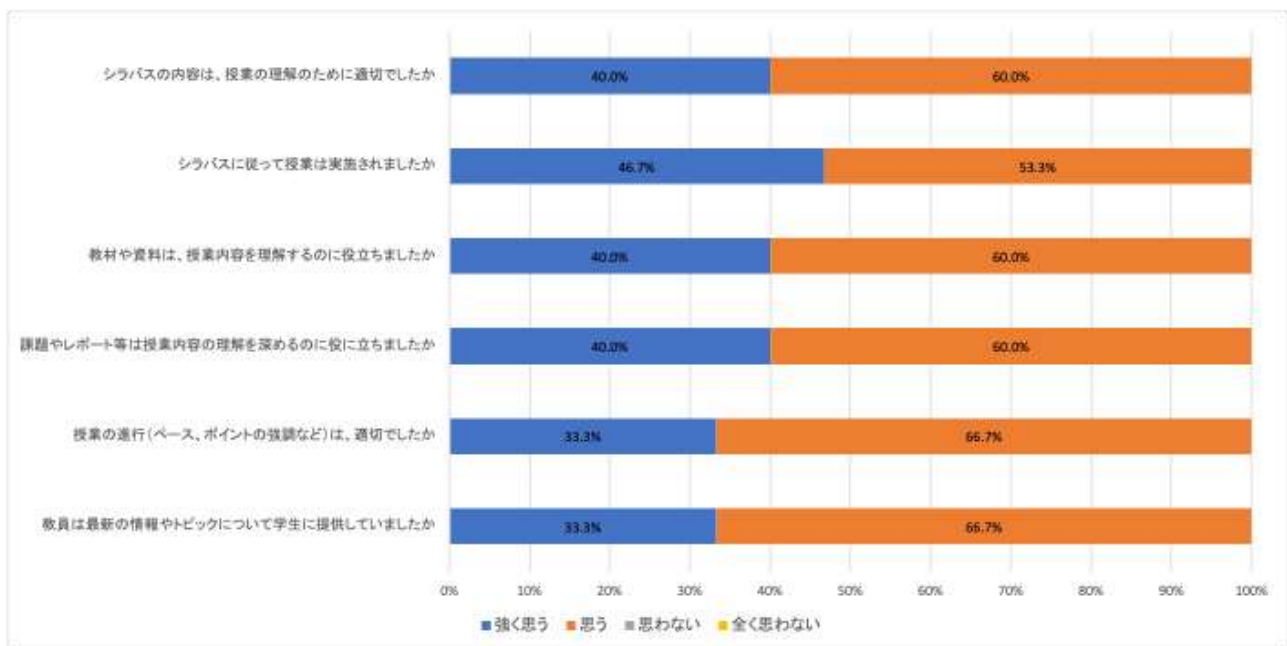


図8：授業の質について【看護学部 情報処理と管理】(n=15)

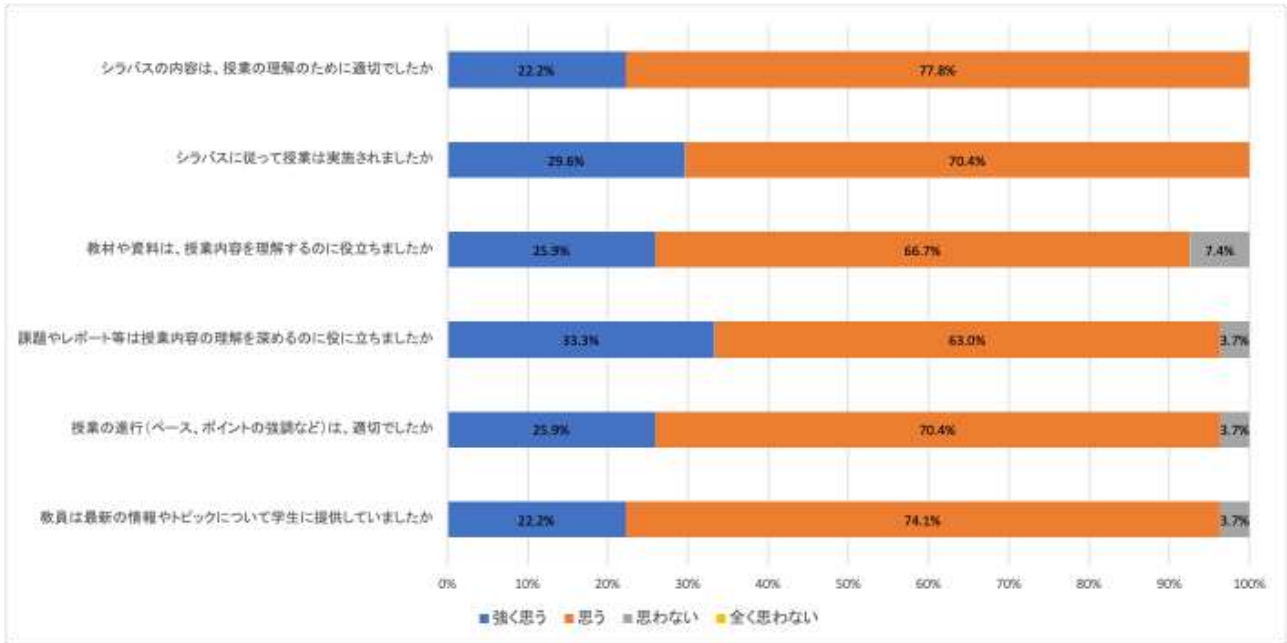


図 9：授業の質について【看護学部 統計分析法】(n=27)

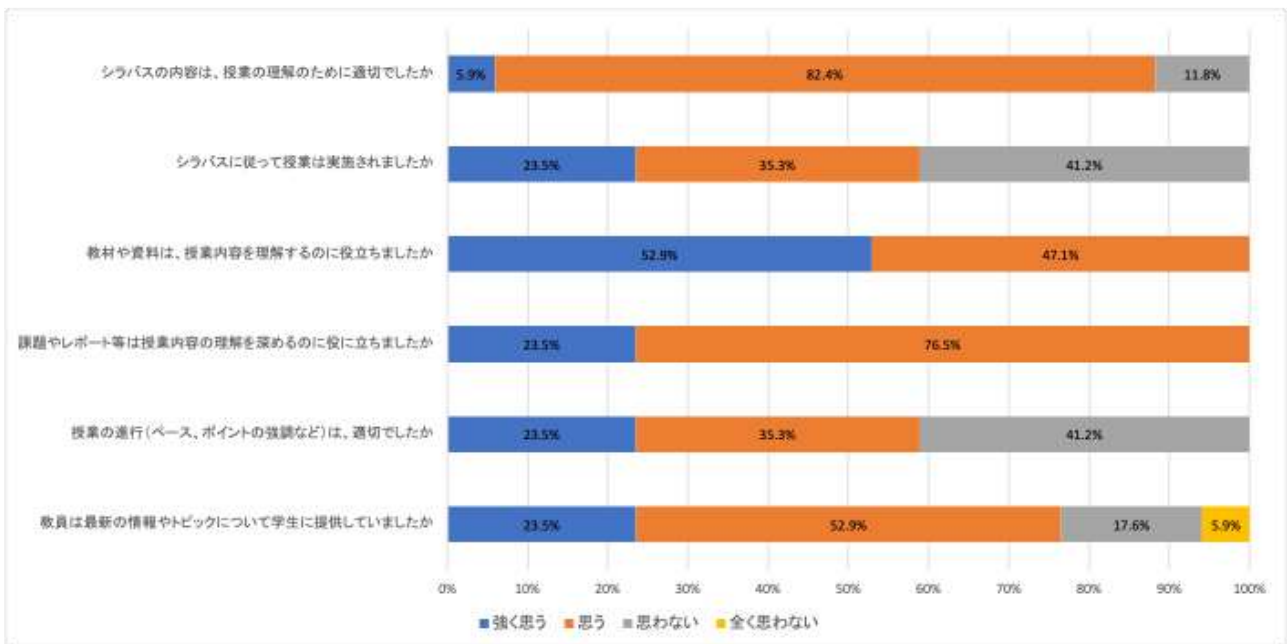


図 10：授業の質について【短期大学部保育科 情報処理法】(n=17)

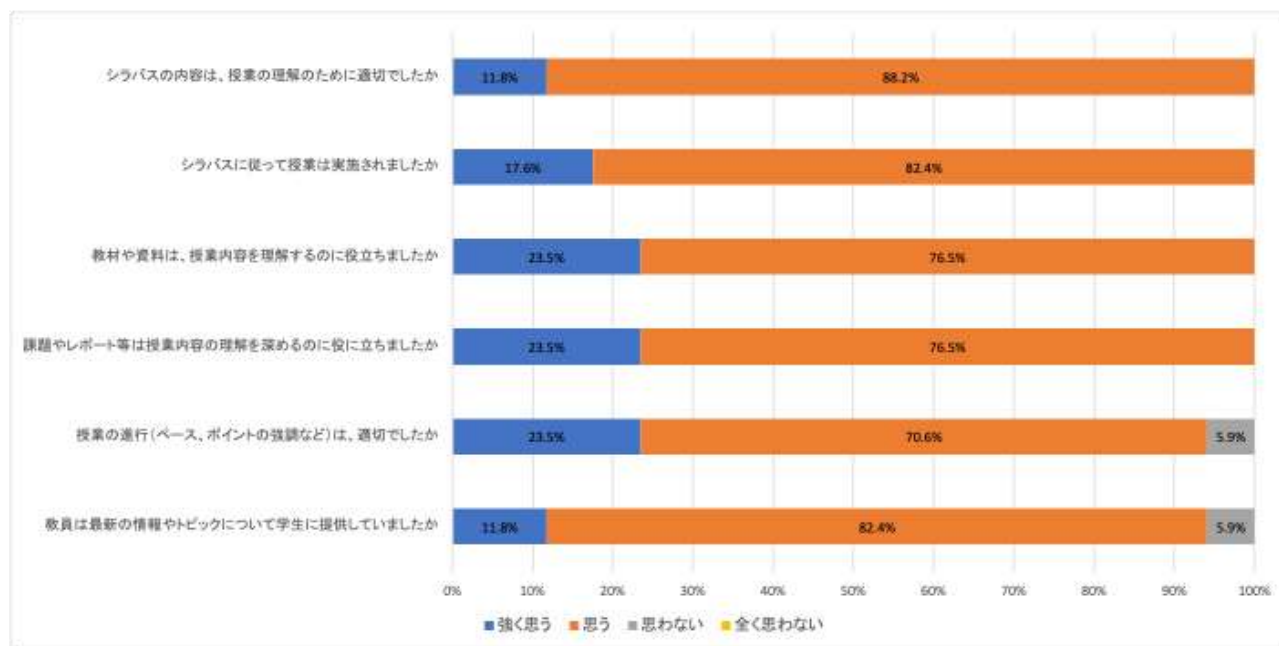


図 11：授業の質について【短期大学部保育科 情報分析法】(n=17)

総評

本プログラムは、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的なリテラシーを全学的に育成することを目的として、各学部・学科の必修科目として実施している。2025年度においても、対象科目の履修率は100%であり、全学的なリテラシー教育としての実施体制は一定程度整備されている。また、学生アンケートにおいては、学修成果、満足度、後輩等への推奨度について、いずれも概ね肯定的な結果が得られており、本プログラムはリテラシーレベルの教育として一定の成果を上げていると評価できる。

一方で、学部・学科ごとの結果には差が見られる。経営学部では単位修得率が他学部・学科と比較して低く、出席時間不足への早期対応や学修支援の強化が課題である。看護学部では、推奨度や満足度に一部課題が見られ、医療・看護の実践場面とデータサイエンス・AIの学びをより明確に結びつける授業設計が求められる。短期大学部保育科では高い肯定的評価が得られているものの、ICT利用経験の少ない学生に対する個別支援を充実させる必要がある。

また、外部評価委員からは、データを収集するだけでなく、分析し、課題解決や戦略立案につなげる力を育成することの重要性や、AIを使いこなす力の育成が必要であるとの意見が示された。今後は、学部・学科ごとの専門性や学生の多様性を踏まえ、専門分野に即した実践的な事例を取り入れた授業内容の充実、SA等を活用した支援体制の整備、AIリテラシー教育の強化を進めていく必要がある。

以上を踏まえ、今後も本プログラムの内容・方法を継続的に改善し、学生が数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義と活用する価値をより実感できる教育の実現を目指す。